



東二幼だより

どろんこ

学校法人 曾根学園
東二番丁幼稚園
令和6年度 春の特大号



始業式・入園式から2週間が経過し、最初はにこにこ顔で登園していた子どもが急に「幼稚園に行きたくない」と言ったり、登園をしぶったりする姿が見られているご家庭もあるかと思います。そのような時どうしたらよいのか……。子どもの気持ちを尊重すべきか、泣いてても連れていった方がよいのか……。迷いますよね。

生まれてから3～5年で大好きなお父さんやお母さんと離れて過ごすことは、子どもにとって大きなエネルギーを使っています。その時の状況やご家庭によって対応が変わりますが、「今日はお母さん（お父さん）とお家で遊んでいようか」と一緒に過ごすことも有りだと思います。

子どもの成長は、“3歩進んで2歩下がる”です。できるようになったことができない時や、やりたくない時があります。でも、そんな時こそ甘えを受け入れて、たくさん抱っこして、スキンシップを取って気持ちを共有してあげましょう。たくさん甘えることができた経験が幼児期に育てたい“根っこの部分”が育ち、将来自立していくエネルギーになり、また将来の自己肯定感に繋がります。

『楽しい幼稚園生活を送るために』と題してまとめてみましたので、是非ご参考ください☆



楽しい幼稚園生活を送るために

- ① 幼稚園は子どもが初めて出会う学校です。
- ② 新入園、親も子どもも試練の季節。
 - ・朝の登園は時間にゆとりをもち、イライラしない。
 - ・「別れの儀式」は気持ちよくしっかりする。
 - ・「いっぱい遊んだら、お母さん・お父さんが迎えに来るよ」と具体的に話す。
 - ・泣いて当たり前。慣れるには時間がかかると覚悟する。
 - ・園生活は子どもにプラスと考え、不必要な罪悪感を抱かない。
 - ・迎えの時は園内で寄り道せずに、子どもに向かう。
 - ・最初の頃は降園後わがままになったり甘えたりすることもあるが、大目に見る。
 - ・担任を信頼し、疑問があったら何でも相談する。
- ③ 幼稚園に入る頃から親の意図に反した行動や態度を見せることがあります。自分の意思で行動できるようになった現れです。「反抗」「わがまま」と思うとイライラします。「自立」「自己主張」と思うと喜びに変わります。
- ④ 幼児にとって「失敗」は重要な体験。失敗と試行錯誤が柔軟な逞しさを育てます。失敗をとがめたり、叱ったりしてはいけません。笑顔でゆったりと見守ってあげると、自分から試行錯誤する態度を見せてくれます。
- ⑤ 「泣いてはいけません」は「自己主張してはいけません」と同じ意味。しっかりと自己主張できる子に育てるためには、泣いて訴えていることに耳を貸すこと。聴いてあげるだけでいいんです。
- ⑥ 「おりこうさん」は3歳まで。理解力と聞き分けの良さだけ誉める言葉です。3歳を過ぎたら、「よく我慢できたね」「よい考えだね」などと、行動力と判断力を育てるために、おりこうさんの理由を具体的に誉めましょう。
- ⑦ 挨拶できずにもじもじしている子に、「おはようは？」という親御さん。最後の「は？」は余計です。まずは、親御さんが気持ちのいい挨拶を！挨拶やマナーは、親の態度で教えるもの。
- ⑧ 「絵本を片付けてから、おもちゃで遊びなさい」これは大人の考え。幼児は絵本からおもちゃへ、そしてまた絵本へ。遊びが遊びを生み、いろいろな方向に展開します。お片付けは十分に遊びきったところでまとめて。最後のお片付けも遊びの一つ。
- ⑨ 「えーとね」「あのね」「そしてね」と話が先に進まない時期。満4歳前後に見せる態度です。実は、ボキャブラリーがぐーんと増えて、より適切な表現を探そうとしているのです。あわてさせず、ゆったりと聴いてあげましょう。
- ⑩ 「大人が笑えば子どもも笑う」「合わせ鏡」で育児をしてみましょう。

